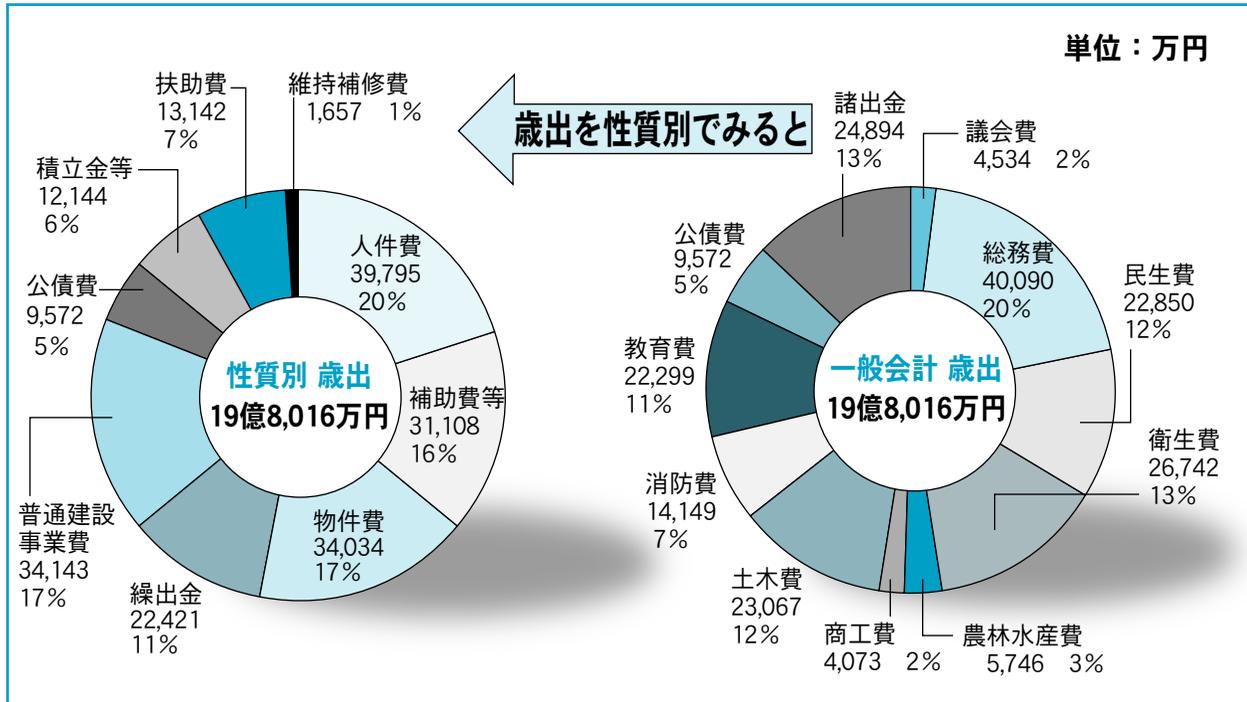
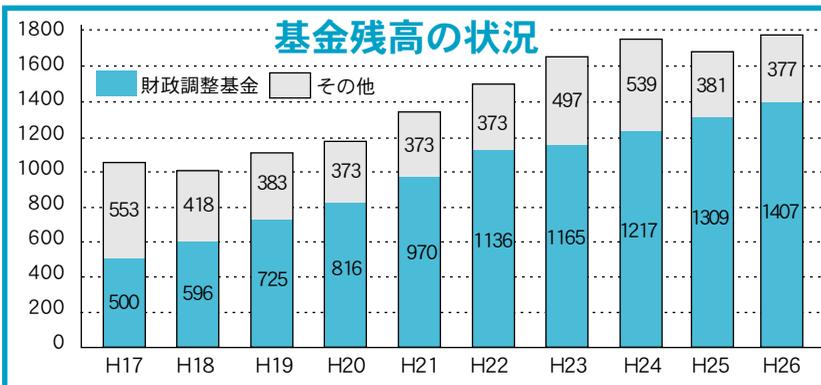


単位：万円



(単位：百万円)



平成26年度は、経費削減に努めたことにより歳出が抑えられたため、基金現在高が約9,400万円増加しました。

### 東秩父村の健全化判断比率

平成26年度決算に基づいて算定された東秩父村の健全化判断比率は下表のとおりです。

区分	東秩父村	早期健全化基準
<b>実質赤字比率</b> 一般会計(*)の赤字から財政運営深刻度をみる比率(*村の一般会計等とは、一般会計およびバス会計を合わせたもの)	—	15%
<b>連結実質赤字比率</b> 全会計の赤字から財政運営深刻度をみる比率	—	20%
<b>実質公債費比率</b> 借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度をみる比率(この比率は当該年度と過去2カ年の3カ年の平均値を算出)	1.4%	25%
<b>将来負担比率</b> 村が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率	—	350%

(摘要) 早期健全化基準の数値を超えた場合、財政健全化のための是正措置が必要となります。赤字がないため、実質赤字比率と連結実質比率は「—」で記載されます。将来負担比率は算定されないため「—」で記載されます。

### 歳出

義務的経費といわれる人件費、公債費、扶助費の総額は、歳出全体の32%を占めています。25年度と比較して、人件費が約2034万円、扶助費が約836万円の増額となりましたが、公債費が約2219万円の減額となりました。

総額を25年度と比較すると、約651万円の増額となっています。投資的経費である普通建設事業の総額は約3億4143万円で、25年度と比較して約3億5046万円の減額です。これは、おもに防犯情報通信システムの整備事業が完了したため減額となったことがあげられます。

26年度の事業は、小中学校工アコン設置工事、また、25年度に引き続き村道4271号線の道路改築工事(ふれあい橋新設)を実施しました。その他の経費としては、補助費等、物件費、繰出金、積立金等、維持補修費があり、総額で約10億1363万円、25年度と比較して約4492万円の減額となりました。